

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）中間評価結果

大 学 名	慶應義塾大学
タ イ プ	B - I I
構 想 名	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本プログラムは、日本と欧州の修士課程の性格の違いを踏まえ、両者を補完する教育プログラムの実施を通じてグローバルエンジニアを育成することを目的としている。事業目的の達成に向けて、欧州の理工系高等教育機関のコンソーシアムである T. I. M. E. Association 加盟大学の最大10校と修士課程のダブル・ディグリー（DD）プログラムを中核として実施するとともに、学部学生には導入プログラムの提供、博士課程学生にはDDプログラムを契機とした共同指導に発展させ、相互接続を考慮しながら取り組んでいる。</p> <p>修士課程のDDプログラムの協定校拡大、学部及び博士課程における適切な枠組み作りが進み、申請時の計画を着実に実施するとともに、産業界との連携によるインターンシップ科目の設置、シンポジウム等の開催についても積極的に取り組み、成果を上げている。</p> <p>また、受入学生及び派遣学生に対して、十分な環境整備が行われている。例えば、DDプログラムでの受入学生に対してコース履修前に日本語サマースクールを試験的に実施する、大学生活等のサポートに在学生や卒業生による支援団体を活用するなどの工夫をしている点は評価できる。</p> <p>更に、本プログラムが大学全体の教育における国際化のベストプラクティスのモデルと位置付けられ、他の学部・研究科等のDDプログラムの設置や、他の学生交換プログラムに波及効果をもたらしている点は高く評価できる。</p> <p>今後の課題として、日本人学生を派遣する相手大学の学術分野に若干偏りがあることから、一部の大学に派遣希望が集中する傾向が認められるとのことだが、より広範な学術分野で日本人学生が受け入れられるよう、相手大学と個別に交渉し、課題を克服することが期待される。</p>	